

Feb. 1933.

63

ウルシグサ一種の研究だけでは本科全體が昆布目に入るものか否かは疑問である。例へばタバコグサ (*Desmaretia tabacoides*) の如きは游走接合子嚢が知られてゐるからである。タバコグサはウルシグサ屬のものでないことは明かである (G. KOIDZUMI)

耿以禮氏 :—東亞つくしがや屬 (Y. I. KENG: The Genus *Chikusichloa* of Japan and China, in Jour. Washingt. Acad. Sci. XXI. 1931, p.p. 526—530, fig. 1—2.)

ツクシガヤ屬 (*Chikusichloa*) は一千九百二十五年かつて抄録者が設立せし禾本科の新屬にしてツクシガヤ (*C. aquatica* KOIDZ.) 一種、九州の筑後、肥後、薩摩等に分布するを知りしが、著者の研究により本種は尙支那江蘇省にも分布するを知り、尙他の一新種 *Chikusichloa mutica* KENG は江西省に産する事明になり本屬は抄録者の所謂中部支那要素の一となるに到れり。(G. KOIDZUMI)

ドフランドル氏 :—黄色鞭毛藻の化石 (G. DOFLANDRE: Note sur les *Archaeomonadeae*, in Bull. Soc. Bot. Fr. 1932, p.p. 346—355, fig. 1—38, *Archaeomonadaceae*, une famille nouvelle de Protistes fossile marins à loge silicence, in Compt. Rend. Acad. Sc. CXCIV. 1932, p.p. 1859—1861.)

黄色鞭毛藻 (*Chrysophyceae*) の化石は真正黄色鞭毛藻目 (*Chrysomonadales*) のものゝみにして殊に其中の石灰質黄色鞭毛藻亞目 (*Coccosphaerinae*) や硅質黄色鞭毛藻亞目 (*Silicoflagellinae*) のもの寒武利亞紀以來發見されてあるが著者は今回光藻亞目 (*Chromulinae*) の化石を澤山發見した。化石は皆本亞目類の休眠子 (*Cyst*) であつて中には *Euglenaceae* の *Trachelomonas* に似たものや *Dinoflagellata* に似たものなども含んでゐる。氏は之等を一括して *Archaeomonadaceae* なる一新科とするが之は無理である。

著者の之等を發見した地層は Jutland 島、Kusnetzki 盆地、Maryland 及び北米 New Jersey の Beach Haven 等の近生植物代の硅藻土の内からて次の如き皆新屬のものである。

Archaeomonas, *Archaeosphaeridium*, *Amphilitropyxis*, *Litheusphaerella*, *Litharchaeocystis*, *Paraarchaeomonas*. (小泉源一)

コマロフ氏 :—東亞きよすみうつほ屬 (V. I. KOMAROV: *Phacellanthus* in the far East, Bull. Acad. Sci. URSS. Cl. Sci. Phys-Math. 3 (1930) p.p. 267—274, 4 fig.)

キヨスミウツボ属 (*Phacellanthus*) は従来唯キヨスミウツボの一種日本より知られしに過ぎざりしが著者はウラジヲストック附近より *Phacellanthus continentalis* n. sp. を発見せり。(Z. Y.)

大井次三郎氏：—東亞産スゲ属への貢献前編、〔京都帝國大學理學部紀要、B 區五卷三號〕(J. OHWI: Contributiones ad Caricologiam Asiae Orientalis, Pars Prima, in Memoirs of the College of Science, Kyoto Imperial University, *Series B*, Vol. V, No. 3 Article 12. Kyoto, July 1930).

京都帝大植物學教室の標品室には、故 U. FAURIE 氏が集め、KÜKENTHAL 氏其の他スゲ属の専門家が鑑定した、有名な東亞産スゲ属標品の一そろひが保存されてゐる。特にスゲは念入りに採集したので、其の標品製作上の方法についてはしばらくおけば、かの莫大なる標品に各々正確なる番號を與へ、各番號を世界の大研究所に配布した事については、神技とも云ふべく、驚き入る外はない。大井氏の研究は、この正確なる Duplicate type 並びに Co type を使用され、多量の教室所藏の同属未研究標品(特に九州の標品は田代善太郎氏の大蒐集品が加つてゐる)を分類され、其の結果幾多の新事實が発見された。本論文中の新種には、*Carex Gotoi*; コウライカワラスゲ、*C. persistens*; キンキカサスゲ、*C. autumnalis*, *C. hondoensis*; アイズスゲ、*C. levicuspis*, *C. mayebarana*; ケヒエスゲ、*C. papillaticulmis*; アオバスゲ、*C. subdita*; アオヒエスゲ、*C. uber*; ツクシスゲ、*C. geantha*; ハガクレスゲ、*C. tenuinervis*; ツルナシオホイトスゲ、*C. Tashiroana*, *C. kiusiuana*; ツクシシヨウジョウスゲ、*C. lutchuensis*, *C. perangusta*; ヤクシマイトスゲ、*C. lonchophora*, *C. Hidewoi*; センジョウスゲ、*C. subcernua*, *C. mitoensis*; ミトスゲ、*C. kobomugi*; コウボウムギ *C. spongiosa*; 等あり *C. nanella*, ミヤマカサスゲ、*C. multifolia*, *C. cucullata*, 等の新名や新組合せがある。其の他多数の新變種並びに新見解、新産地を發表された。就中コウボウムギ (*Carex kobomugi*) は著者の大いに心を用ひられしところと聞く。(北村四郎)

同氏：—東亞産スゲ属への貢献後編、〔京都帝國大學理學部紀要 B 區六卷五號〕(J. OHWI: Contr. Caric. As. Orient. Pars Altera, 1. c. Vol. VI. no. 5 Article 7 Kyoto, July 1931).

本論文は上記の後編であつて、同氏の朝鮮咸北採集旅行に依る新研究、並びに内地産のスゲ属の記事がある。多くの新産地、新見解、新變種が記載されてあるが、そ